

令和6年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

1 学校の教育目標 『希望』を持ち、日々『感動』し、『仲間』と共に歩む児童の育成 ～ 笑顔あふれる 輝け！！伊沢っ子 ～

2 本年度の重点目標

- 子ども……学力・生活の土台である「聴く力」を高めよう。
- 教育活動……目的の明確化と共有
- 働き方改革……ICT活用による業務改善

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

○夢に向かってがんばる子 ・めあてを持つ力(目標・夢・志)・自分を見つめふりかえりチャレンジする力・人を大切にし協働する力・自分の考えを持ち表現する力

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価 考察(成果と課題)		次年度への改善点等	学校関係者評価	
				評価			
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	年度始めに、学校経営方針を周知するとともに、毎月の学校だよりや学年通信で取組を知らせよう努めた。また、学校HPIにも学校経営方針をのせるようにした。保護者評価は昨年度より6上昇し、89%となった。今後も引き続き分かりやすく伝えるよう心がけていく。	A	教職員の自己評価が低くなっていたので、HPや学年だよりでの周知がさらに充実するよう取り組む。	A	A
	学校教育目標	希望・感動・仲間の推進	学校教育目標に関する評価は本年度より実施したため、昨年度との比較はできないが、「希望」「感動」「仲間」に対する保護者評価はそれぞれ83%・85%・90%と高いものだった。児童評価では、「感動」の項目が92%と最も高かった。「夢や希望をもって生活できている」の項目が83%と3つの項目の中では低く課題となった。	A	児童が夢をもち、楽しく学習できるよう、教育活動の中での人との出会いを充実させていく。	A	
	学級経営	一人一人を大切にす る学級経営の実践	「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童はそれぞれ88%、95%であり、昨年度より1%下がったものいづれも高い評価であった。「学校は安心して生活できる」と答えた保護者も91%で昨年より5%上昇した。さらに教職員間で連携をとりつつ児童が安心して生活できるよう努めていく。	A	児童の実態把握に努め、教職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。	A	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「わかりやすい授業を工夫している」の保護者評価は90%と昨年度より2%上がり高いものとなっている。しかし、今年度の重点目標であった「人の話を聞くことができる」については、教職員評価が57%と課題が残るものとなった。	B	引き続きわかりやすい授業となるよう工夫するだけでなく、メンター制研修をさらに充実させ、学校全体で取り組む。	B	
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	環境に関する保護者評価は79%、教職員評価は72%と十分といえるものではなかった。施設・設備については、市教育委員会とも連携しながら修繕等を実施している。さらに点検を実施し、安全で美しい環境整備に努める。	B	設備の老朽化が進んでいるため、危険な箇所の点検を行いながら早期改善を図る。	B	
	業務改善	働き方改革の推進	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は92%であり、昨年(91%)に引き続き高い。本年度の3学期より実施した水曜日特別日課(※そうじなしで下校を20分早める取組)にも協力的である。職員の時間外勤務時間も学校全体で見ると月100時間を超えて減っている月もある。職員の意識では、74%と十分と思えていない教職員もいたため今後も推進していく。	A	会議の見直しや効率化などをさらに進め、教職員の勤務時間の短縮につなげる。	A	
	学力向上	基礎基本の定着 学習意欲	今年度の重点目標であった「人の話を聞くことができている」と答えた児童は88%であるが、教職員の評価は57%と低い。聞く力は、学力の土台であり、対話的で深い学びにも欠かすことができない。学校教育目標の【感動】おもしろく・楽しく(ワクワク)学習に取り組んでいるが92%と高い割合のため、主体的に学ぶ姿勢を伸ばしながら、聞く力がつくようにしていく。	B	相手を見て聞くや傾きながら聞くなど「聞く」方法を具体的に児童と共有し、聞く力を高めていく。	B	
心の教育 (人権教育)	人権尊重精神の育成 いじめ防止	学校教育目標【仲間】「いじめをせず友達と認め合い生活できている」は88%と「友達に会うのは楽しい」95%、と昨年同様児童評価は高くなっている。また保護者評価も90%と高い。しかし「困ったことがあったとき、だれかに相談している」が75%と低く、相談しにくい児童がいることがわかる。定期的ないじめアンケート等を引き続き実施するだけでなく、教職員間で行っている「寄り添う会」で共通理解を図りながら人権教育を確かなものにしていく。	B	人権教育に学校全体で取り組み、児童・職員の人権感覚を高め、いじめのない学校づくりに努める。	B		

教育活動	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「きまりを守っている」についての児童評価は95%、保護者評価82%、教職員評価57%と評価に差がある。あいさつについても「きちんとしている」と答えている児童は87%と答え、保護者80%、教職員54%と差がある。今年度、SWPBSで取り組んだこと(トイレのスリッパをそろえる)をさらにさまざまな生活の場へ広げ、きまりを守り、規則正しい生活を送ったり、進んであいさつができたりするよう取り組んでいく。	B	B	昨年度から取り組んでいるSWPBSをさらに広げ、児童が主体的に課題改善に取り組めるようにしていく。	B	B
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	「学校教育活動やPTA活動に参加・協力してるか」に対して保護者評価は67%と低いが、教職員評価は87%と高くなっている。学校行事への保護者参加率は非常に高く、交通安全指導にも積極的に協力し児童の安全を見守ってくれている。PTA活動の見直しにより協力できる行事が減っているため、保護者の自己評価は低くなっているが、今後も協力し、児童の成長につながるよう取り組んでいきたい。また、学校に協力的な地域の方が多いため、地域の教育力がさらに生かせるよう行事などを体系的に組み込んでいきたい。	B		地域の人材をさらに生かせるよう行事の体系化し、マネジメントしていく。	B	